

萬國幼稚園
協會案 幼稚園要目 (四)

構成の材料。

積木、砂場、粘土、紙、織る爲の織物、縫ふ爲の織物、木材、雑多な材料。

積木は、フレール積木の擴大したもの——形も割合もフレール積木と同じで六倍の大きさにした床上積木——と、これらと連絡する種々な形の板片とから成立つてもよろしく或は、ヒル氏の床上積木と板とは、木工場か學校の手工部で造られる。それには楓或は他の質の堅い木材を使用すべきである。

之等の材料を持つて多くの構成は、子供達もつと自由に、もつと大きい筋肉を使って遊ぶ爲めに、床の上でする。毛は清潔にして置かなければならない、そして子供達には各自に小さい全皮か藎ごさを用意して置くべきである。子供達が必要を感じる時には床上積木と共に板を興へたり又、フレール積木の屋根にする爲にボール紙を興へたりする事が出来る。最初子供達は自由に材料を使つて、何が出来るかを自分で發見しながら實驗する。子供達は

材料の可能性を發見した事から導かれて、まもなく自分自身で題材をさらへるようになる。たとへば、塔を造る爲に積木を積み、或は人道をならべ、或は家や汽車の車を構成する如き。そして彼等の構成は現在の興味又は過去の經驗と同程度のものである。一人の子供が正方形と長方形の角柱で立關や階段を、丁度自分の家と同じ様に造れば、一番目の子供は、一昨夕方散歩して食事をした事のある並木の中のベンチや長テールを造る。幼稚園の人形やお皿で創造された社會状態は、椅子やテール、ストープ寢具其他の物を造る積木の用法を呼び起し、五六日も續くことがある家事遊は發展し改善せられて、子供が必要を感じる毎に掃木やナブキン、テールカケ、寢具の様な方面に装具が附加へられる。時には各々の子供は自分の方法で自分の考を實現する様に積み、再び二人或は四五人の子供が積木を連合し自發的に協力して提案を解決し、同時に一群の子供は、教師の誘導から或は彼等自身で撰擇した更に大きい社會的の計畫を解決する爲に協力する。教師が彼

女の日程の中で特に力を用ひ様と思つた問題の中のどれにでも子供の興味が生じたといふ事を見たら、すべての子供達の興味がそこへ集注するようにさせる。たとへば數人の子供が家事遊びに興味を持たせると、教師は構成に更に強い動機を與へる爲に、そして場面を一層眞實に又興味深くする爲に、ついたてでしきつたお家を持ち出して來る。さうすれば教師は遊びを進展させる爲の問題を指示する事が出来る。

積木の構成の計畫の或物——雜貨店を建てたり、室の一隅のお家に家具を裝置したりする事——は、日程の主題から起る。

雜貨店は、初め個々の計畫として造られる。各兒がフレール積木で帳場や棚——大小の珠の塔で表はされた果物や野菜の罐やジュエリーのガラスの入れ物を添へた——を造る。他の材料で構成せられた物も裝置を完全にする爲に同じ様に添へ物をする。個々の仕事ですんで後に群になつた子供達は、多勢の子供達が一度に來ても充分な丈の大きな店を造るのに各自の努力を協力する、——大きい積木と板を帳場と棚に圓筒を野菜や果物の罐に使つて——。遊び

が進行した時に、そして子供達が必要を發見した時に他の材料は積木と共に用ひられる。實物の果物や野菜葡萄が用ひられてもよい、或は粘土の果物や野菜が造られ、彩色され、そして箱や籠が之等の入れ物として構成られる。貨幣が造られそれを入れる紙入や物品の受渡の車が造られる。クリスマス季節が近づくに雜貨店は玩具店に變り、自分達で造た雜多な玩具で子供達によつて飾りつけられる。春には、新しい衣服の必要が、百貨店や呉服店の裝置建築へと導く。其他の計畫は、ひよこの家や小舎、穴倉や農家の如き農園の建物を構成したり、垣根を造たりして、農園を造り出す事である。子供達が、彼等の食物の起原に興味を持つと同時に、出來得るなら農園へ遠足をする。農園の經驗を、出來る丈價值あり、又樂しきものとして朝は、ひよこに、餌をやつたり又枯草の中で遊ぶ事に費される。その翌日幼稚園では玩具の動物が持ち出されて子供達は彼等の積木で動物の爲に、特別の小舎や水桶や納屋の庭を造り、野原や畑や牧場が造り出され、そして垣根が出来る、かようにして漸次この、小農園は砂箱の中で或は室の一隅で發展して行く。此處でも雜貨店の時と同様

に計畫を完全にする爲に、他の材料が積木と組み合される。若し農園への遠足が出来ず、そして農園訪問が各自の子供の經驗の部分にならないならば、この問題に就て費される時間は、や、少くない。そして、單に之等の農園の狀況が、子供の經驗に最も親しく、最も興味ある様に見える製作でのみ表される。たとへば雜貨店に農産物を運ぶのに彼等が見る積荷車の構成や玩具の動物の小舎を建てる事や又玩具の動物に餌をやる事や水をやる如き。

代表的の建築と、社會でよく知られてゐる建物——それらは子供達の家庭に貢獻する處ある故に、子供達にとつて興味あり意味深きものである。最初に、家々は、子供各自が住まつてゐる家、或は親しい家と同じ様に建てられる。之等の個々の家々は、後に街路に添うて排置される、そして人道や馬車、街燈やポストが之等の家々と連絡する爲に又其の家々の役に立つ爲に用意される。子供達が最も親しみある代表的賣店は實業区域内に建てられてゐる。馬車、荷車、自動車は運般の爲に構成構成られる。之等に次いで、學校や寺院や郵便局や圖書館や消防署、汽車のステーション等の如き親しみ深い公共建

築物は特有な形で建てられる、かようにして室の一隅に小社會が漸次發展して行く。

形式的の仕事は此の材料ではされない。それは大體が、此の時代の子供の興味をひく處の物の用途、

と目的、資質と作用とである爲に。材料で作る、といふ事には數學的の價値がある、そして子供の取扱う種々の經驗から、後の爲に形や大きさや數の辨別及部分の排列の基礎を作る。然し教師は材料の外觀を強ひてはならない、が子供が自發的に或數學的價値に到達した場合には、いつでも教師はその必要を満たす。幼ない子供には例外であるこの數學的興味に加へて形、大きさ、數、排列が、子供自身で仕始めた計畫を實現する爲に意識的の要素となつて來る時に、子供は自然に數學的價値の或智識を得る、たとへば若し建築に、長方形の角柱を使ひ盡したとして、そしてもつと子供が要求した時には、教師は、子供の前にある、長方形の角柱を造り得る積木を指示してもよい。この積木の必要から、子供は二つの長い方形の角柱、或は二つの短かい方形の角柱が長方形の角柱と同様に排置されるといふ事を發見する事に興味を持つ。

砂場—そこには貝殻や礫や錫や御影石のお皿等のある—は、装置の價値ある項目である。子供達は最初、たゞいたり、積み上げたり、篩たり、掘たり、かきまぜたりして、砂場の中で山を造たり穴やトンネル、川や井戸やお菓子やお料理を作たりして、自分自身の遊びを實驗する。後に子供達が、協力する事に興味を持つ様になつた時に、砂場に、集團的な問題が提出される。野原や畑、建物のある農園、學校の運動場、公園、家、庭園、自動車置庫、我等の街路或は、我等の町か近所の代表的の建物、は日程の主題によつて提出された問題であつて、砂場で解決される。

紙又は積木で造る構成^{クミカタ}—人や動物は紙で剪り或は土でこね、木は小枝又は紙で表はされる。其仕組みは簡單で、子供に案出され、子供に實行せられる。教師は彼女の子供に對する質問で、子供が仕組みを考へたり組織立てたりする事を助ける。しかし、仕事をすると、こいふ事は教師よりも、子供自身が着目したこの結果である。

粘土は、その可塑性と、子供の爲るがまゝに成るといふ事の爲に、多種の形を型造るのに工合よく用

ひられる。實驗的遊び—ごく初めは、たゞいたり、まるめたり、つまんだり、穴を造つたりする—は、子供の最初の無目的な手はじめ(材料を持てする)から、意識的に自分の考を實現する(菓子、皿、人形、毬を造る事で)ように發展して行く或る提案から實現される。十分要目に連絡を持つ、粘土製作の少數をあげれば次の様である。

焼く爲のパン、菓子、パイ。お皿や、お料理をする什器。

農園の運ぶ車の爲の果物や野菜—それは造られて彩色されたもの—。雜貨店や感謝祭のテーブル。玩具店のクリスマス玩具。或はサンタクロースがストロブの側に置いて行く爲の玩具。燭臺や、クリスマスの贈物を父母にあげるのに用ふ、紙で造たエナメルで塗た計量器。彩色をしシエレクトで上塗りをして春、種を蒔くのに使ふ爲の花鉢や花壺。鳥の巢と鳥。本當の遊びに使ふ爲めにシエレクトで塗り、彩色した石彈。粘土は屢々お話の挿繪として使はれる、たとへば、三匹の熊の如き。

構成^{クミカタ}の紙は、その使用をはからどせる可能性の爲に、幼稚園の材料の中で最も價値あるもの、一つで

ある。紙は丈夫でしなやかで良い色でなければならぬ、そして提出される計畫は簡單で子供の興味と伴はなければならぬ。

構成に著手する前に、缺の管理を仕なければならぬ。初めの切り方はお人形の枕へ詰めるのに使ふ小さい切れくゝを造る事である。それから、お家の敷皮やテーブルかけの爲に紙が房の様に切られる、又寢具や敷皮が剪られ又ナブキンが剪られて、お家に使ふのに摺まれる。この時子供達は、雑誌から畫を線通りに上手に切りとる爲に充分缺を管理しなければならぬ。この事が、スクラップブックを要し、引つゞきペーヂを折たり本のカバーを造つたりする。

次の問題は、庭から種を集める爲に籠を作る事である、又、焼く爲にお鍋を、雜貨店の爲に箱や籠や、袋を、灯提、山羊の角で造た裝飾物、クリスマスツリーの爲のベル、玩具店の玩具、ヴァレンタインの封筒、春に使ふ風、花輪花火、扇、洋傘、紙人形とその衣服戸棚又衣服を入れるトランクやそろつた箱、人形の家の爲の揃た家具、或は子供達が各自で充分家具を備へ付けて箱に造た一室のお家の爲の揃た家具を造る。紙の構成は積木の代りに砂場、或はテー

ブル又床の上に、農園、市街―それらは運搬車、馬車、自動車、垣等と同様に家や小舎や店や寺院、其の他の公共建築を呼び起す―を表現するのに用ひられる。

本や籠、箱、扇、灯提、人形の著物、敷皮の如く提出された多くの問題は、適應した工夫の爲に特別な機會を與へる。

紙の構成に伴ふ法式は他の材料に用ひられたのと同様である。最初の第一歩は實驗である。考と問題がこの實驗から成長し子供達は彼等の出来上つた結果をためして見た時、或は友達や教師のすゝめに従つた時にそれを改良する。次に教師は―常に必ず子供自身の考と進歩の程度に應じるといふ事を顧慮しながら―子供達がもつと進歩した形を造る様にと補助する。

織る爲の織物や型としては、ボール紙か木で出来た機械機械―それは年長兒によつて造られる―、絲績ぎ、八本よりの絲、麻、木綿―それは子供か教師かが家から持つて來て容易い染料で美しい目立つ色に染めて幅廣な小巾に切る―がある。子供達は彼等の機械機械を木やボール紙で造り、容易に經をか

ける。織る爲の適當な問題は、人形の家の敷皮や、人形のハンモックやマフや帽子である。紙の敷篋を造る事の困難と不十分な出来上り―それは材料の弱い爲に生じる―はもつと實際的な本當の織物に近い製法で、もつともちのよい材料を與へれば問題にはならぬ。之等實際的材料は單に子供達が、より容易く製造し得るのみでなく、その出来上つた結果が彼等の遊びの生活に役に立つ爲に、更に大なる價值あるものと見られる。しかし出来上つた結果を良くする爲に造る手間が長くかゝるのと又その方法に正確を要すといふ事から、實際的に織物をするに云ふ事は或定限内の仕事であつて、しかもそれは年長の子供に用ひらるべきである。

縫ふ爲めの織物としては、**木綿、毛織、或種の羅紗、ガス、太絲、大きな針**がある。

カードラ縫ふといふ事は多くの幼稚園で棄却されてゐる。子供が自分の考を表す爲には、それより、もつと充分塑造的な媒介物があるを考へられてゐる。しかし、組み合さつた紙を縫ふといふ事は、子供が使ふ物品―たとへば、お店ごつこの時の紙入や郵便配達の鞆等の如き、―の供給に屢々採用せら

れる。簡単な半返し縫ひ方が用ひられる。縫ふ事も亦、織る事と同様限定せられた範圍内でされる。

といふ理由は、幼稚園の子供にとつて、興味ある事ではあるが、一層緻密な筋肉を働かせる事になるからである。材料は、危険のない大さで粗末なものではなければならぬ。幼稚園の人形の要求は、最も自然で興味ある活動を持ち來す。毛織の著物、肩かけ、寝具が用意されなければならぬ、これで人形は冬の仕度が出来る。又春には木綿の著物や日よけ帽が要求せられる。子供達は屢々自分の著物の切れ端しを、家から持て來る事が出来る。著物を造る事の最初の試は、純然たる實驗から得るものである。材料が小さい形に切られ、人形の著物は屢々、あらい大きな針目で縫はれる。その結果は比較され、教師や子供達によつて評議される、そしてより善い形を見分ける方が發達するので、出来上りを追々改良する様に、他の試が引續いて起る。それで子供達が簡単な二本縫目の著物を造るのに過ぎ、型紙が必要になる。

縫ふ事は、織る事と同様、年長の子供にとつては價值ある仕事である。

構成の木材としては、**木質の柔かい種々な木材**、種々な大きさや形に切れた木片、針、膠、槌、鋸、**最初に子供達は、種々な板の片を使って道具**がある。得る或程度に達するまでは、單に切たり、たゞいたりする事で満足する。それから彼等は、簡單な物を—それは木片の形によつて屢々指示さるゝ事がある—、造る爲に木片を集めはじめ。次に材料は、目的物—それは、其時代の子供に興味あるもの—を造るのに適當な大きさに切られて箱に入れられる。子供達の問題は、彼等の個々の目的に最もよく適する木片を選んで合せたり、釘付けにしたりする事である。時々子供達は彼等の必要に合ふように板を量つたり、見たりする。注意すべき事は、木材としては、白松やシナの木の様な柔い質を選ぶ事と、木片は容易に割り得る様な薄さにすべき事である。

要目は、この材料で解決されるに適當な或問題を提出する。それは、大きい人形の爲の簡單な家具、又木箱を使って子供達が自分で造た人形の家の爲の小さい家具、人形の車、農園又は雜貨店の車、クリスマスの玩具店の玩具、小公園や遊園の裝置、鳥小舎、

苗床である。之等のものゝ多くは子供達に染められたり塗られたりする。出來上りは粗雜ではあるが、然し充分に堅牢なやうに造る。

種々な形の木や、板紙の箱、絲巻き、皺にした紙、ミルク壺の栓、等の雜多な材料は、家遊びや店遊びの構成に、又玩具や必要品の爲に、誘導的な安價な物品を提供する。此の材料を持つての仕事が、子供達を工夫に富ませ、家を構成するのに種々な材料を用ひる様に促す。他のすべての材料に於けると同様、此處にも教師は、造られる處の物は簡單な粗雜な物である事を承認せねばならぬ。仕事を持ち來す教育的價値の標準は完全な物の中にはない。子供が獨立して仕事をしたり考へたりする時に得る力の中にある。教師は自分の野心を成就させようとする爲めに、あまり子供を助けるといふ事のない様に警戒しなければならぬ。

補充材料

大きい、種々な長さの棒、珠數玉、大きなボール紙。大きい棒は、まれに畫を造る時に用ふ。子供が自分の周圍の物に就いて自分の考を表發し得るのに、よりよい媒介物は塑造や畫く事によつて更に多

くなる。然し棒は、積木や他の材料と混合してする構成の遊びに有用である。たとへば馬車の軌道を造たり人道を造たり、街燈の杭や垣を造るのに、大きな珠で構成したりする等の如き。又或時はコーヒーの實や他の大きな種を模様のように連ぎ合せる事もする、一構成られたある物の飾の爲めの設計準備として、子供達は人形の家の、壁紙や、敷皮、テープルかけや本や他の興味あるものゝ爲に染料やクレヨンやペンキでするの一番よい模様や列べ方を實驗してみる。

球の形をした珠數、正方形、一インチの直径で一インチ半の圓筒とが材料の中に含まれる。

幼ない子供に特に適する、球を繋ぐ事が初めに實驗されてその子供達の實驗から簡單な排列が生じ、一步一步と教師や子供達の評にあふ毎に種々な組立の型やリズムミクナな排列へと導かれて行く。自然材料—赤いさんざしの實や、薔薇の實、苺類、橙の實等も繋がる。或時は繩や、からの燈心草を短く切たのにつなぐ。

大きなボール紙は實驗的活動を呼び起し、常に或種類の組み合わせへと誘導する。子供達は屢々場面を

一色の釘でうづめ、垣で圍まれた牧場の爲に玩具の動物を要求する。或は子供達は釘を花として竝べて庭を造り或は考を發表する代りに、單に彼等の美の感じを満足させるリズムミクナな排列をする事もある。釘は珠と同様、子供の色に就いての喜をみたす材料であつて、種々な排列の機會をあたへる。

「幼稚園訓練」より

「自分の事を自分でする」手はじめ。

自分の帽子、外套を自分で著ること、少なからも一個のボタンは自分ではめて。

大きき充分な時には、自分の上靴を自分ではくこと。

鼻や口に手を持ってゆかぬようにすること。

ハンカチーフをつかふべき時に使ふこと。

ボタンをかけること。

共有物に對する責任の手はじめ。

材料をキチンと片づけること。

自分のテーブルをかたづけ床をこさつぱりときれいにすること。

材料を無駄に使はぬこと。

共有物に對し責任を負ふべき時にはよき手助となること。

國旗を尊敬し、敬禮すること。

「キンダーガーデン、マガジン」より

友人を持つ唯一の道は友人となるにあるのみ。ただ友人の家に入りたりとて更にその人に接近するを得ると云ふにあらず。(エマソン)